

## 新たなビジネスの創出を目指す くまもと県南フードバレーフォーラム



▲市フードバレー推進課がスクリーンを使って農産物の輸出現状と八代港を活用した今後の取り組みを説明

9月24日、千丁公民館で熊本県立大学と八代市の共催事業である「くまもと県南フードバレーフォーラム」がスタート。アップ情報交換会」が行われ、県や市、JA職員、商工会会員など約200人が参加しました。

これは、地域からは課題やニーズの情報を、大学からは研究開発に必要な技術やアイデア、蓄積された知見、さまざまな取り組みなどの情報を出し合い、連携した取り組みを推進させることで新たなビジネスの創出を目指すものです。

県フードバレー推進室などが県産物の輸出状況や販路拡大に向けた今後の取り組みを報告した後、同大学の教授らが「県産農産物の機能性評価」、「ICTを活用した農業の情報発信と農産物販売支援システム」の研究結果などを発表しました。

## 九月は日奈久で山頭火イベント 山頭火の直筆資料鑑賞・山頭火シンポジウム



▲直筆資料を見ながら解説を聞く参加者

9月20日、「九月は日奈久で山頭火」15周年記念として、種田山頭火の手紙や俳句などの直筆資料10点が日奈久ゆめ倉庫に1日限定で展示され、多くの人が集まりました。

熊本近代文学館の井上智重館長が資料に沿って熊本や日奈久でのエピソードを解説。「妻子や世間を捨て、行乞の人生を送り、放浪の俳人としての道歩んだ」という話に参加者は深くうなずいていました。

鑑賞後は、山頭火シンポジウムが開催されました。作家であり竹細工師でもある稲垣尚友さんが講演。山頭火のような考えだったら、また違った竹細工人生があったのではと語りました。座談会では、「男ってやつはいくつになっても・・・」と題し、その言葉に続く文を参加者が体験談を交えながら発表していききました。

## バランスが絶妙 はちべえトマトパン 優良商品賞受賞の報告と新商品披露



▲赤いパッケージの「はちべえトマトパン」と新商品「トマトマドック」(手前)

八代特産の「はちべえトマト」を使用した「はちべえトマトパン」が、熊本県優良新商品表彰事業で「優良商品賞」を受賞しました。これに伴い、開発した九州福祉会の増田利明理事長や岩崎尋和常務理事、うまか屋元氣堂の橋本裕子代表取締役が10月3日に市役所を訪れ、中村博生市長に受賞報告をしました。

同商品は、トマトをビュール状にし、生地に練り込んだもので、トマトの酸味と生地の甘み、柔らかな食感のバランスが絶妙です。

また、ホットドッグをイメージして開発された新商品のお披露目もありました。フランスパン生地トマトを練り込み、ソーセージとキャベツを挟み、トマトソースとマスタードで味付けされています。中村市長が「トマトマドック」と命名。今後、八代よかとこ物産館や道の駅などで販売される予定です。

## 砥崎の河原 すっきり NTT 西日本 電線を地中化



▲電線の地中化に伴う電柱の撤去作業 (10/2)

八代妙見祭のメイン会場である「砥崎の河原」で、7月中旬から11月上旬にかけて電線の地中化工事が行われています。

市からの要望を受けNTT西日本の熊本支店が取り組んでいるもので、水無川右岸の観覧席周辺にある170mの電線を地中化し5本の電柱を撤去したため、すっきりとした景観になりました。

今年のお祭りに間に合うようにと、短期間の工期で進められました。八代営業支店の川嶋一敏支店長は「由緒あるお祭りの演出の一助になれば幸いです」と話しています。

### 住宅用火災警報器・消火器の贈呈式



▲橋本昭則予防課長から消火器などを受け取る平田啓爾会長

全国消防機器協会「社会貢献委員会」が実施している住宅用火災警報器と住宅用消火器の配布モデル事業に日奈久校区が選定され、9月12日、南部市民センターで贈呈式が行われました。日奈久校区の町内会長など約20人が出席。八代広域行政事務組合の橋本昭則予防課長から日奈久校区住民自治会の平田啓爾会長に警報器100個と消火器25本が渡されました。平田会長は「早速活用して、1軒でも多く設置対応できるようにしたい」とお礼を述べました。今後、未設置の高齢者世帯で順次取り付け作業が行われます。

### 鏡小学校敷地内通路の舗装寄附



▲舗装された通路



▲感謝状を受け取った古島規雄さん

鏡小学校敷地内通路にアスファルト舗装（全長約55m、幅1.3531m）と側溝（長さ2.5m）を寄附した鏡町の古島規雄さんに対し、9月11日、全児童が集まった鏡小学校体育館で三島和也校長が感謝状を贈呈しました。同校の校門から玄関前までは土の通路であったため、雨天時は、児童の靴や玄関のアスファルトがぬかるんだ土で汚れていました。古島さんは「児童の喜ぶ顔が見たい」との思いから寄附を申し出ました。6年の榎田幸良さんが代表して「雨でも靴が汚れることがなくなり、気持ちが良いです」と感謝を述べました。

### 彦一とんち話を観光づくりに活かそう



▲「地域の人と一緒に進めていくことが必要」と語る田中徹氏

9月11日、やつしろハーモニーホールで「八代とんちのさんち 彦一とんち話を八代の観光づくりに活かす」講演会・意見交換会が行われ、飲食業や旅館業者、商工・観光関係者など約30人が出席しました。JTBコミュニケーションズ九州の田中徹地域振興部長が講演。「情報発信・呼び込み型から、おもてなし・受け入れ型の観光へと形態を変えていく必要がある。一人ひとりが彦一を取り入れたおもてなしをすることが観光振興につながっていく」との話しに、参加者はメモを取るなどしていました。

### 青年海外協力隊としてセネガルへ



▲中村市長へ報告に訪れた宇佐美里子さん（右）

9月30日から2年間、青年海外協力隊として西アフリカのセネガルに派遣が決まった植柳下町の宇佐美里子さんが9月19日、市役所を訪れ市長に出発の報告をしました。これは国際協力機構（JICA）が実施する事業で、宇佐美さんは現地の教育委員会に在席し、小中学校を巡回しながら授業をしたり運動会やスポーツ交流などの企画をする予定。「中学生の頃から海外ボランティアにあこがれていました。自分のやりたかった活動ができるので、健康に気をつけて2年間頑張ってきた」と抱負を語りました。

### ふるさとエコカルタなどを寄贈



▲赤い箱が「ふるさとエコカルタ」

「次世代のためにがんばろう会」が「ふるさとエコカルタ」と「八代地域の希少生物カルタ」を市内の小中学校や図書館に寄贈することになり9月19日、カルタの文言や挿絵の作成で協力した八代農業高校美術部の3人と八代工業高校インテリア科の3人が、中村市長に54箱のカルタを手渡ししました。これはTOYOTA環境活動助成金プログラムを受けて3年がかりで作成したものです。八代工業高校2年の中野み悠さんは「希少生物のタイラギの札を作成しました。初めてなので、ネット調べて絵を描きました」と話しました。

### オーストラリアの高校生が日本文化を体験



▲箏の演奏にも挑戦

9月18日と19日、オーストラリア・ブリスベンのサンシスト校の高校生14人と教師3人が八代白百合学園高校を訪問し、日本文化を体験したりホームステイで交流を深めました。外国人観光客誘致のために県が行っている豪州学習旅行誘致事業の一環で、八代白百合学園高校としては初めての英語圏の学校との交流となります。19日は授業を体験した後、茶道、着付け、箏曲、華道、書道を体験しました。アデル・ファン・ダー・ヴィンデンさんは「全ての体験が面白くて興味深かったです」と笑顔で話しました。



### 100歳おめでとうございます



境 敏子さん  
(本町一丁目)

大正3年10月2日生

現在、施設で生活している敏子さん。1人娘として氷川町で生まれ育ちました。結婚後6人の子どもを授かり、農業や雑貨屋の仕事をしながら子育てをしました。

趣味は折り紙で置物を作ることです。2年ほど前まで楽しみました。現在は読書を楽しんでおり、中でも推理小説が好きです。

長寿の秘訣は「毎朝歩いたり、95歳までゲートボールをして体を動かしていたから」。

### 八代自動車学校から反射タスキの贈呈



▲贈呈に訪れた左から柳田彦彦総務部長、住田正剛校長、吉永富二夫代表取締役社長

9月29日、CAT八代自動車学校の吉永富二夫代表取締役社長ら3人が市役所を訪れ、中村博生市長に反射タスキ500本の目録を手渡しました。

これは、同学校が創立50周年記念事業として、交通安全に役立ててもらおうと実施したものです。

中村市長は「交通事故による死傷者は依然として多い。いただいた反射タスキは、子どもから高齢者までいろんな年代を対象とした交通安全教室などで活用します」とお礼を述べました。

### 八代海 河川・浜辺の大そうじ大会



▲袋いっぱいにごみを拾い集める参加者

9月28日、「八代海 河川・浜辺の大そうじ大会」が行われ、市民や市内企業、官公庁などから約120人が八代海沿岸の市内3カ所に分かれて一斉清掃を行いました。

「八代海北部沿岸都市」地域連携創造会議と次世代のためにがんばろう会が、八代海の再生への意識を高めようと毎年行っているものです。

参加者の藤田康嗣くん(第七中学校1年)は「流れ着いていた大きな発泡スチロールに驚いた。浜辺がきれいになり、すっきりしました」と話しました。

集められたごみは、種類調査が行われた後に万葉の里公園に運ばれ、分別されました。

### 蓄光タイプ手すりカバーを寄附



▲北岡教育部長へ手すりカバーを手渡した秋平社長(右)

プラスチック製品製造業のスリーデザインから市教育委員会へ「蓄光タイプ手すりカバー」91個が寄附されることになり、10月8日、太田郷公民館で受納式が行われました。

手すりカバーの商品名は「グリムZERRO」で、長さは12cm。20分間光に当たると10時間の視認性を確保できるという点で、熊本県新事業支援調達制度の認定品となっています。太田郷・代陽・植柳・坂本公民館に設置される予定です。

同社の秋平浩二社長は「防災意識の向上と節電に役立てて欲しい」とあいさつし、北岡教育部長は「公民館は避難所としても利用されるので、防災面でも心強い」と謝辞を述べました。

### 環境美化推進善行者を表彰



▲表彰を受けた皆さん

10月8日、環境美化推進善行者表彰式がやつしろハーモニーホールで行われ、個人21人と8団体が表彰を受けました。

これは、市の環境美化の推進に貢献し、住みよい綺麗な地域社会づくりに尽力している個人や団体を表彰するもので、昭和51年から実施しています。これまで890人、306団体が表彰を受けました。

中村博生市長は「皆さんの環境美化に対する活動は市民の模範となり、環境への意識の向上につながる」と感謝を述べました。

### 五家荘の日



▲昔は真剣で舞ったという葉木神楽

「五家荘の日」が、10月5日に振興センター1五家荘(旧泉第七小学校)で行われ、県内外から約150人が訪れました。

これは、平成22年に人吉から権原までバス路線が延伸されたことを記念して、五家荘地域振興会が平成23年から開催しているものです。

この日は榎木神楽、葉木神楽、久連子古代踊りなどの披露や椎茸うどんの早食い大会、ご飯のおかず「飯んしゃ」コンテストなどが行われました。

千丁町の辻本敏子さんは「五家荘の魅力に触れて楽しかった」と感想を語りました。